「佐用町　生活と健康に関する調査（一次調査）」結果報告書

佐用町では町民の生活と健康づくりの取り組みとして、令和3年度、大学研究者と共同し、「佐用町　生活と健康に関する調査（一次調査）」を実施いたしました。調査の対象となりました町民の皆様には、ご協力をいただきまして感謝申し上げます。

この度の調査結果の概要を、個人情報が保護された形で、公開させていただきました。本調査の結果は、町の現状把握と今後の政策展開の基礎データとして使用いたします。なお、今回の調査はスクリーニング調査といわれるもので、何らかの問題がある可能性が分かるだけで、実際に問題があるかどうかわからない段階のものであることを申し添えます。

調査時期：令和3年12月～令和4年1月

調査対象者：令和3年11月1日現在、佐用町に住民登録があり、昭和46年4月2日から平成18年4月1日までに生まれた人（令和3年度16歳～50歳）4,697人（あて先不明で返送が12通あったため、最終的には4,685人）

その内訳は下記のとおりである。

（人）

	15～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～50歳	計
男	294	602	641	976	2,513
女	250	492	570	860	2,172
計	544	1,094	1,211	1,836	4,685

調査方法：調査票郵送後、返信用封筒による返送方式

一次調査の回答者概要及び調査結果（単純集計）、二次調査（訪問調査）対象者の抽出方法は以下のとおりで、令和4年4月から実施。

１．調査の回答者概要

回答者数は1,424人、有効回答数は1,423人、有効回収率は30.4%であった。無効回答1人は、性別年齢ともに不明であった。
その内訳は、下記のとおりである（表1）。

性別では、男性 695 人（48.8%）、女性 728 人（51.2%）であり、女性の回答がやや多かった（図１）。

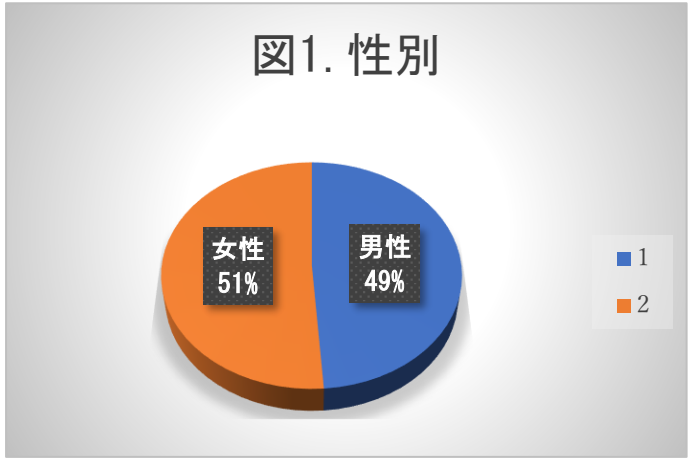
年代別分布は、10 歳代は 15～19 歳の 5 年分であることもあり、回答者は最も少なく 171 人（12.0%）、20 歳代 264 人（18.6%）、30 歳代 366 人（25.7%）、40 歳代～50 歳 622 人（43.7%）11 年間で 1 年分多いが、年齢が上がるにつれて回答が多かった（図 2）。

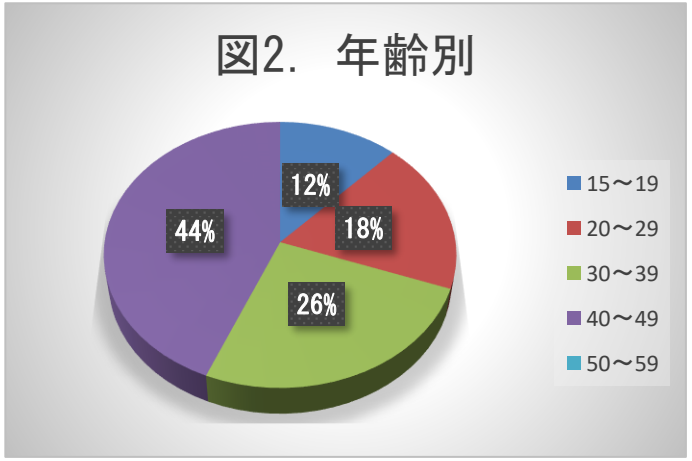
表１．性別・年代別回答者数（人）

	15～19 歳	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～50 歳	計
男	91	128	178	298	695
女	80	136	188	324	728
計	171	264	366	622	1,423

※この報告書における「不明」は無回答によるものを指す。アルコール障害、気分障害・不安障害、睡眠障害等、既存の尺度を用いた回答では、尺度の各項目に対してすべて無回答であるもの、一部無回答であるものは双方ともに無効（判定できない）回答となるため、それらは「不明」として扱っている。

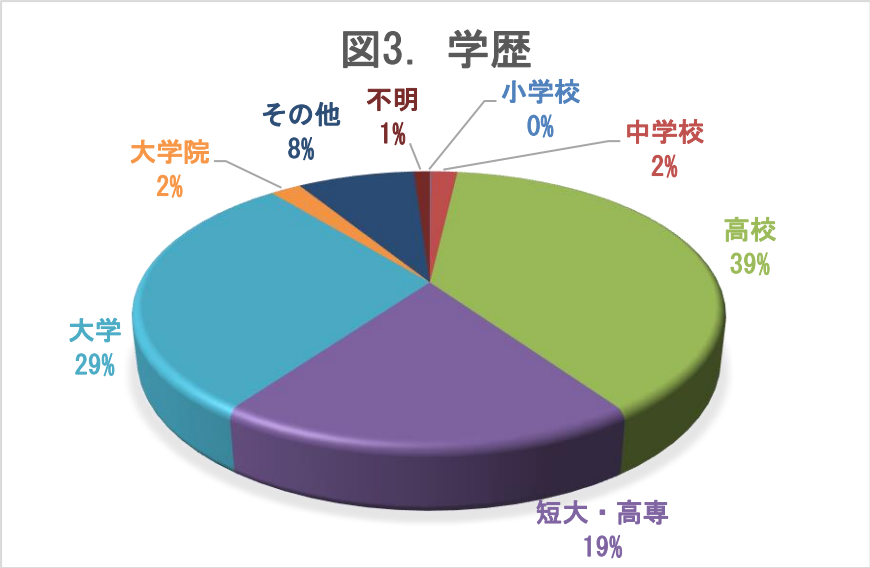
※この報告書においては、結果事実（調査実態）を示すため、率（%）については、「不明」を含む回答者 1,423 人を分母として計算している。尺度の項目について、詳細に解析するためには、不明を除いた有効回答のみを扱うことになる。

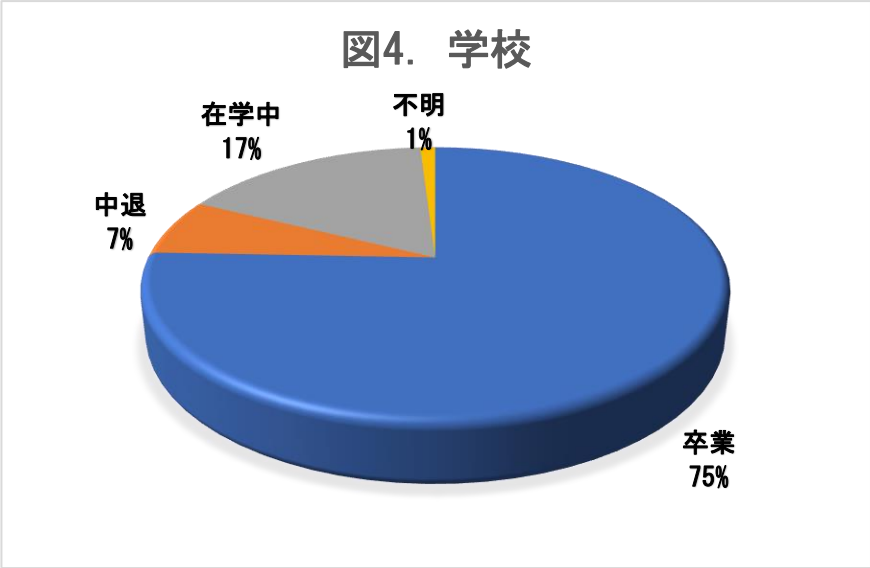




最終学歴は、高校 549 人（38.6%）、大学 417 人（29.3%）、短大・高専 277 人（19.5%）、大学院 29 人（2.0%）、中学校 25 人（1.8%）、小学校 1 人（0.1%）の順で、その他 110 人（7.7%）、不明 15 人(1.1%)であった（図 3）。

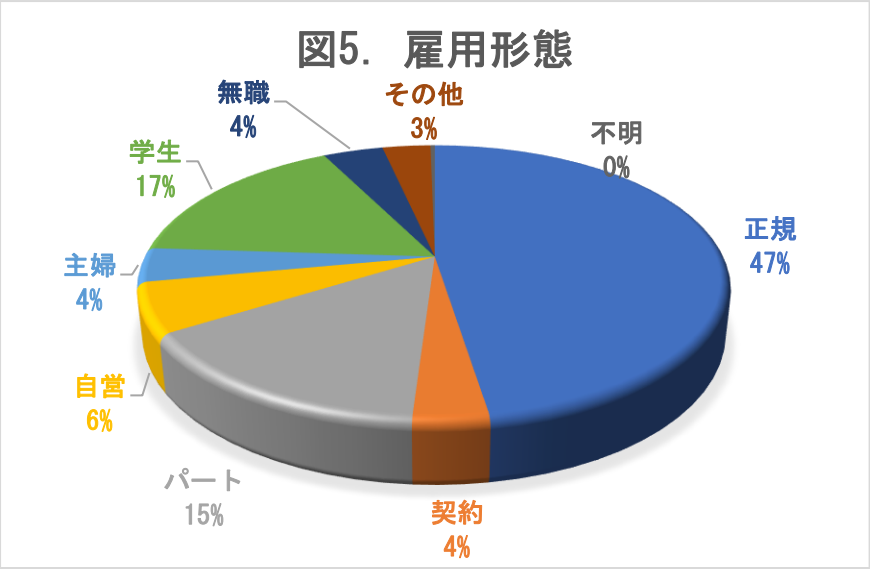
1,075 人（75.5%）は卒業し、95 人（6.7%）が中退、現在在学中 239 人（16.8%）、不明 14 人（1.0%）であった（図 4）。

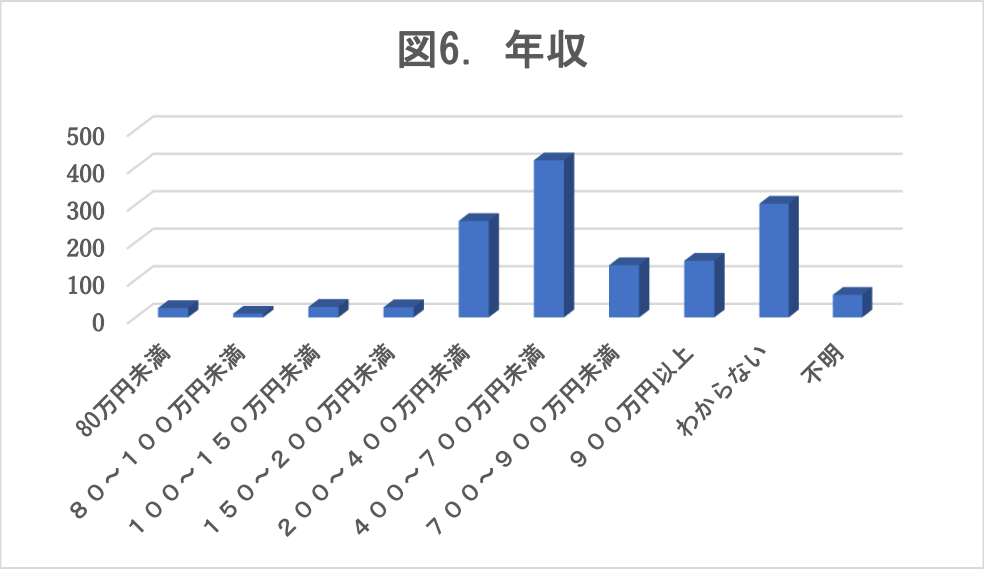




雇用形態は、正規 676 人（47.5%）、パート 214 人（15.0%）、自営 84 人（5.9%）、派遣社員 50 人（3.5%）の順であり、無職と回答したのは 56 人（3.9%）であり、学生は 237 人（16.7%）、主婦（夫）57 人（4.0%）、その他 45 人（3.2%）、不明 4 人（0.3%）であった（図 5）。

世帯収入の状況（表 2）は、400～700 万円未満 419 人（29.4%）、200～400 万円未満 257 人（18.1%）、900 万円以上 151 人（10.6%）、700～900 万円未満は 143 人（10.0%）、100～150 万円未満が 28 人（2.0%）、150～200 万円未満が 27 人（1.9%）、80 万年未満 25 人（1.8%）、80～100 万円 10 人（0.7%）の順で、わからない 303 人（21.3%）、不明 60 人（4.2%）であった（図 6）。





２.二次調査対象者の抽出方法

１）活動項目

「仕事をしている」は 1,096 人（77.0%）、「仕事をしていない」は 314 人（22.1%）、不明 13 人（0.9%）であった（図 7）。

「社会活動をしている」は 461 人（32.4%）、「社会活動をしていない」952 人（66.9%）、不明 10 人（0.7%）であった（図 8）。

「家事をしている」は 1,024 人（72.0%）、「家事をしていない」は 392 人（27.5%）、不明 7 人（0.5%）であった（図 9）。

「育児をしている」は 298 人（20.9%）、「育児はしていない」は 1,116 人（78.4%）、不明 9 人（0.6%）であった（図 10）。

「介護をしている」は 62 人（4.4%）、「介護はしていない」は 1,346 人（94.6%）、不明 15 人（1.1%）であった（図 11）。

仕事・家事・育児・介護・社会活動のいずれも「していない」と回答したのは 102 人（7.2%）であった。但し、現在在学中で週に 2 日以上登校している人を除くと 27 人（1.9%）であった。

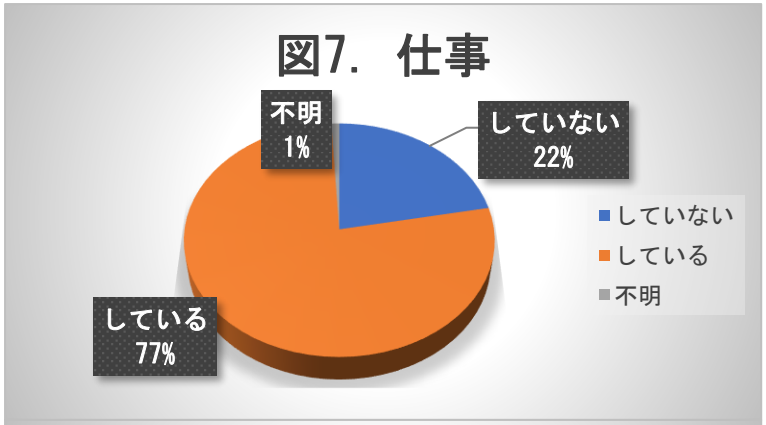


図7. 仕事
不明
1%
していない
22%
している
77%
していない
している
不明

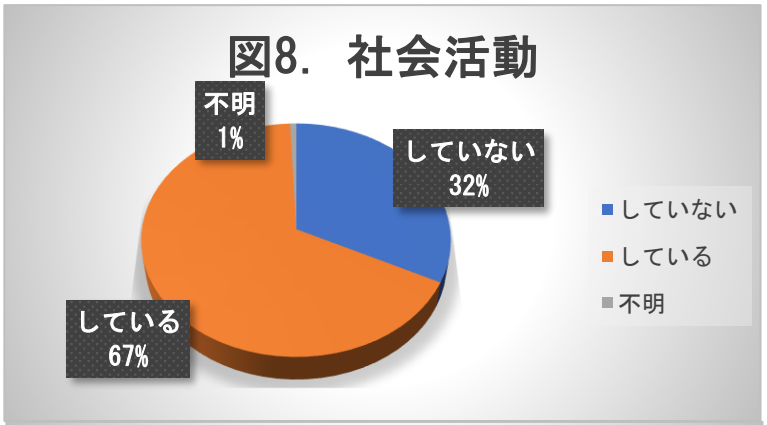


図8. 社会活動
不明
1%
していない
32%
している
67%
していない
している
不明

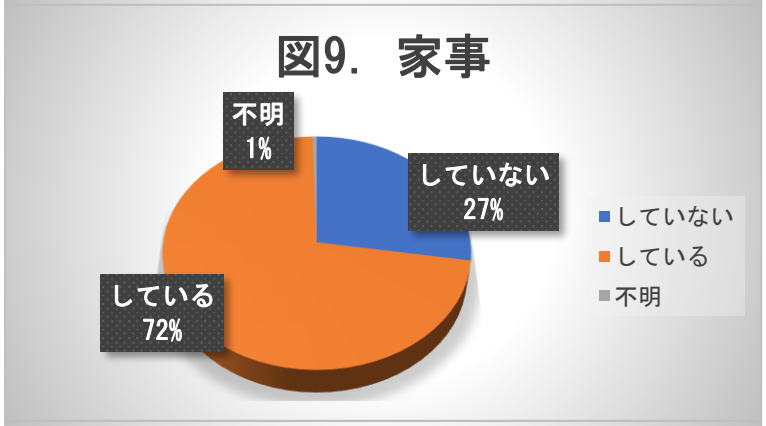


図9. 家事
不明
1%
していない
27%
している
72%
していない
している
不明

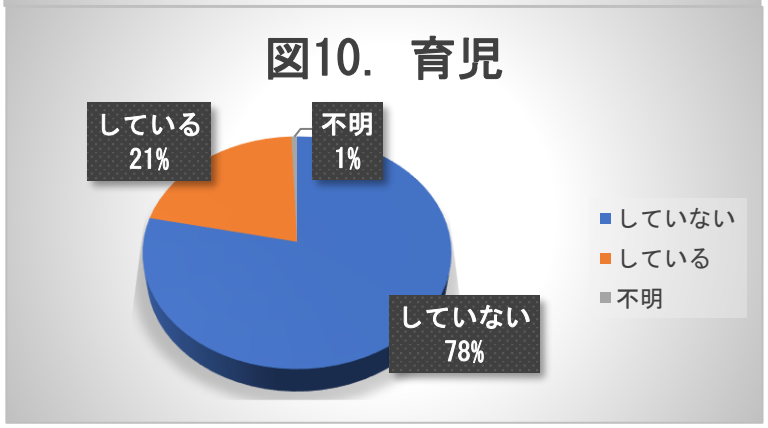


図10. 育児
している
21%
不明
1%
していない
78%
していない
している
不明

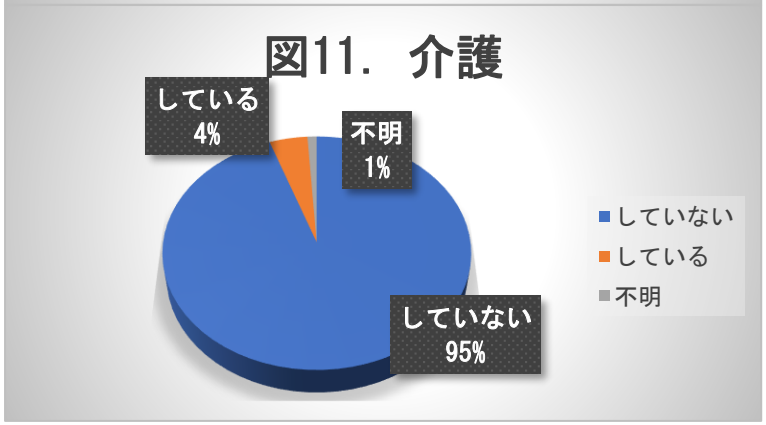


図11. 介護
している
4%
不明
1%
していない
95%
していない
している
不明

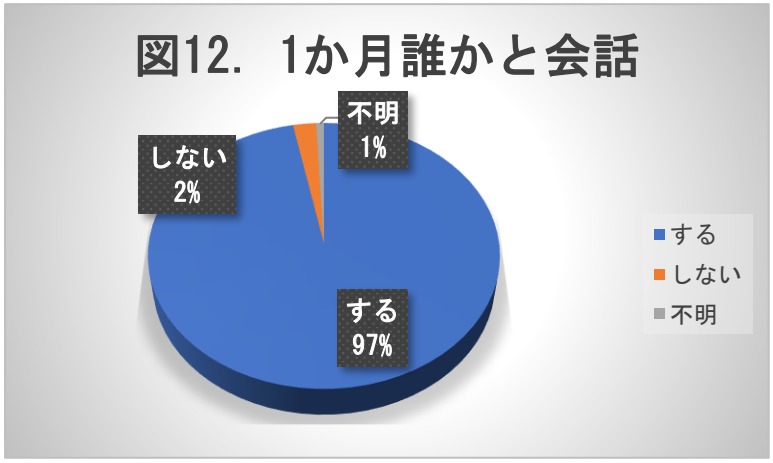
２）交流項目

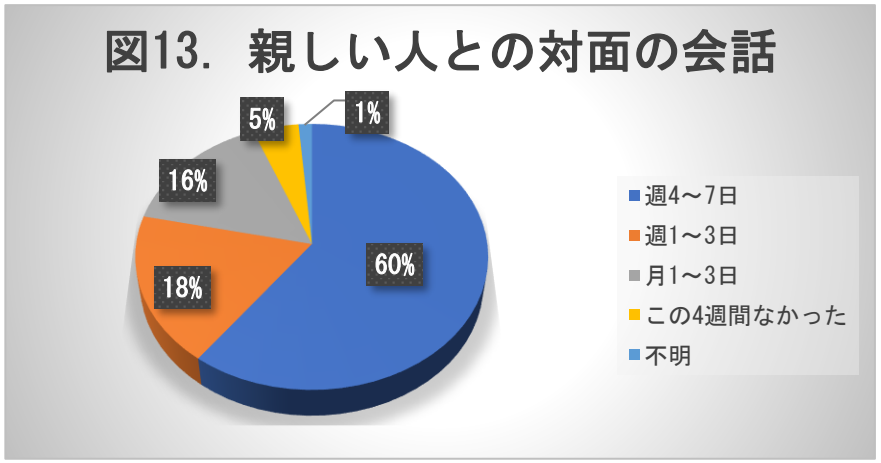
この１か月（家族を除き）誰とも会話をしなかったのは、33 人（2.3%）であった(図 12)。・・・①

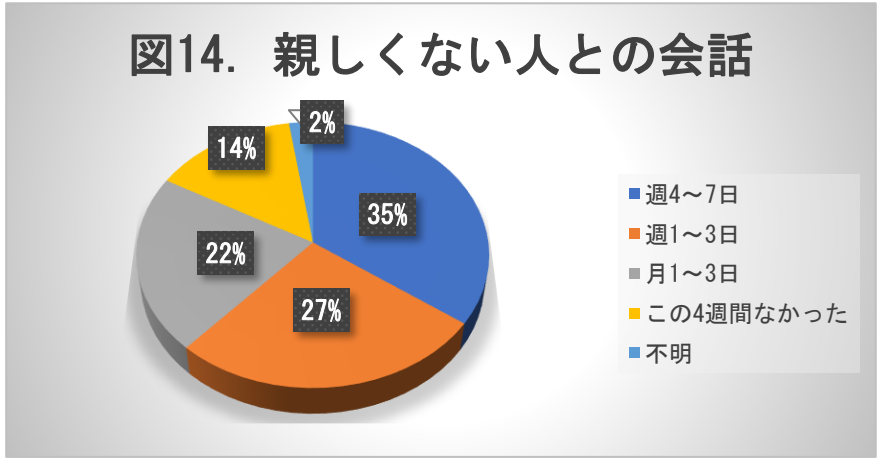
この４週間で、「家族以外の親しい人との対面の会話が全くない」のは 65 人（4.6%）であった（図 13)。・・・②

この４週間で、「親しくない人（親しい人以外の人）との対面ではない会話が全くない」のは 206 人（14.5%）であった（図 14)・・・③

「仕事をしていない」と回答された人の内、上記①～③のどれかに該当し、現在在学中で週に 2 日以上登校している人を除くと 55 人（3.9%）であった。







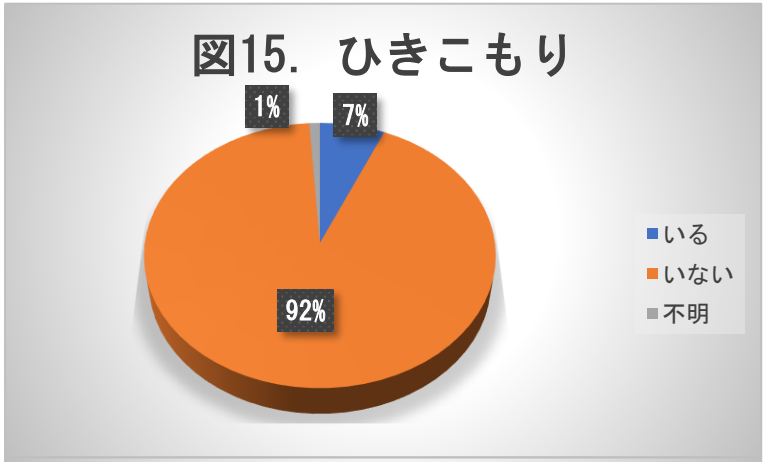
３）ひきこもり・不登校・いじめ

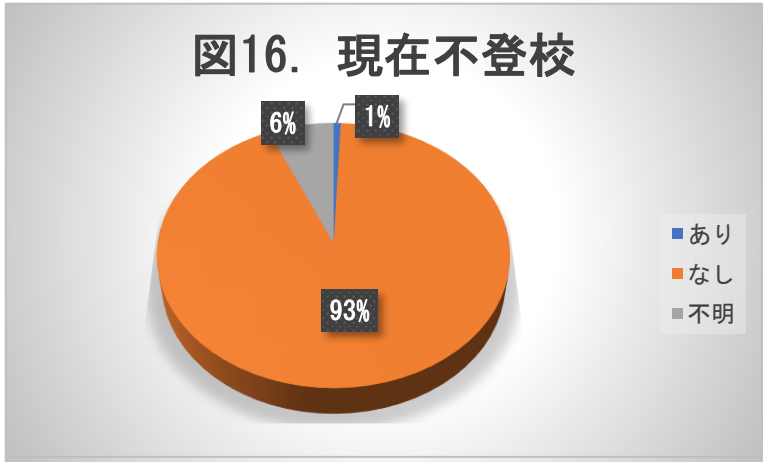
仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、６か月以上続けて自宅にひきこもっている状態であると回答した人 93 人（6.5%）であったが、その内、仕事・社会活動していると現在在学中で週に 2 日以上登校している人を除くと 30 人（2.1%）であった（図 15）。

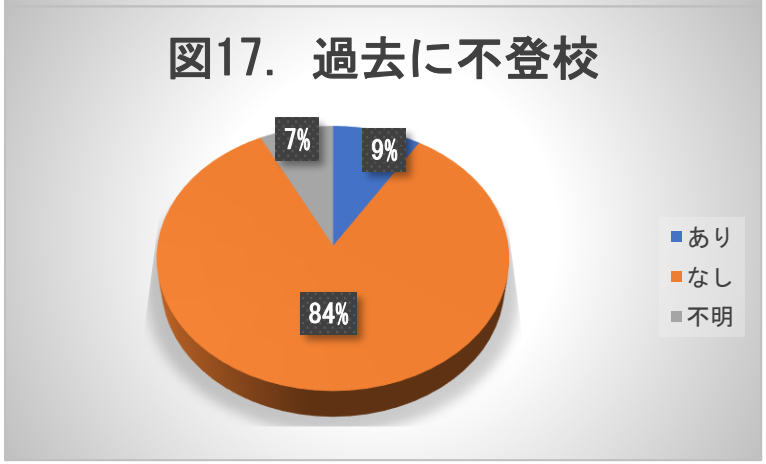
現在不登校であると回答した人は 10 人（0.7%）であったが、仕事・社会活動していると現在在学中で週に 2 日以上登校している人を除くと 5 人（0.4%）であった（図 16）。

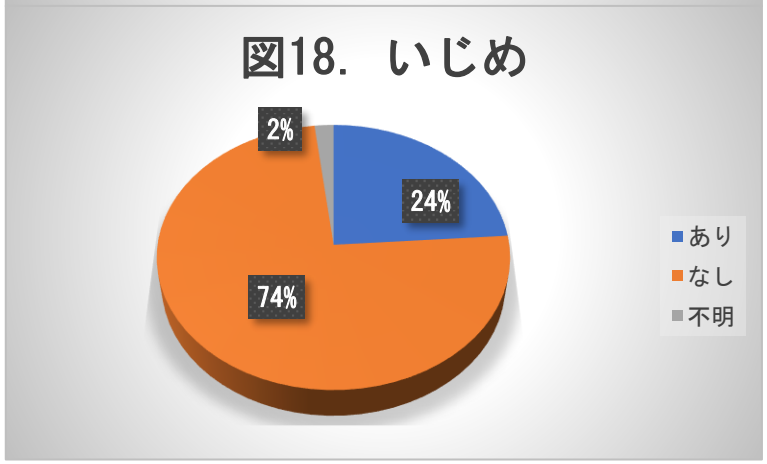
過去に不登校の経験があると回答した人は 126 人（8.9%）であった（図 17）。

いじめの経験があると回答した人は 339 人（23.8%）であった（図 18）。









二次調査の対象者（社会機能低下の疑い）は、以下の条件１～４のいずれかに該当し、条件５を満たす人とした。

条件１．仕事・家事・育児・介護・社会活動のいずれも「していない」と回答

条件２．仕事をしていない、かつ、この４週間「親しい人との対面の会話が全くない」または、
「親しくない人（親しい人以外の人）との会話がない」または、
「（家族を除き）誰とも会話をしなかった」のいずれかを回答した人

条件３．仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、６か月以上続けて自宅にひきこもっている状態であると回答した人の中から、仕事・社会活動をしていると回答した人を除いた人

条件４．現在不登校であると回答した人の中から、仕事・社会活動をしていると回答した人を除いた人

条件５．在学中で、週に２日以上登校していると回答していない

条件１の該当者 102 人で、条件５を満たすのは 27 人

条件２の仕事をしていなくて、「（家族を除き）誰とも会話をしなかった」人で、条件５を満たすのは 20 人、
「親しい人との　対面の会話が全くない」人で、条件５を満たすのは 32 人、
「親しくない人（親しい人以外の人）との会話がない」人で、条件５を満たすのは 46 人、
重複を除いて数えると、該当するのは 55 人

条件３の該当者 36 人で、条件５を満たすのは 30 人

条件４の該当者 5 人で、条件５を満たすのは 5 人

条件１～４には重複があるため、社会機能低下の疑いがある者（二次調査対象者）は 72 人（有効回答者中の 5.1%）となる。

しかし、実際には社会機能が測定できなかった人が 2 人存在するため、社会機能の有効回答は 1,421 人となり、社会機能低下疑い者は 72 人（5.1%）となった。

３．調査結果

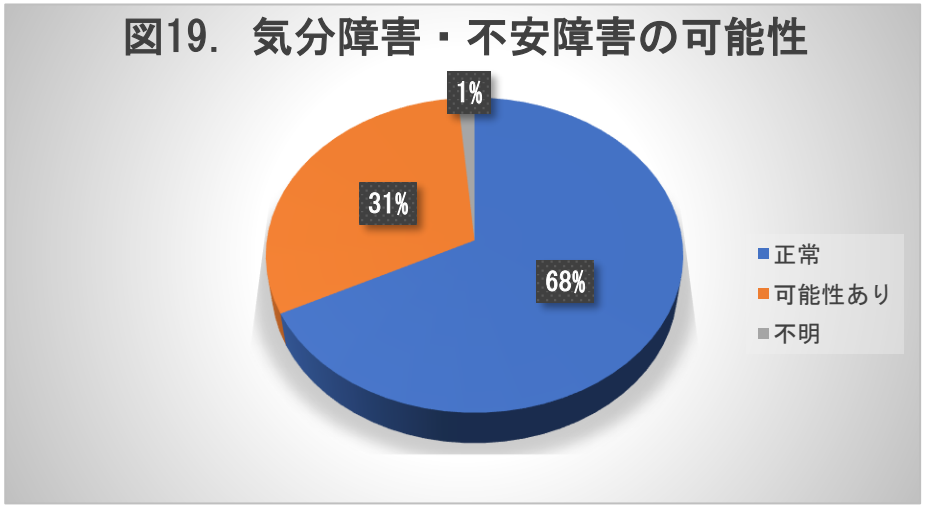
１）気分障害・不安障害をスクリーニングするK6質問票の結果

気分や不安の問題を持っている可能性をスクリーニングする、K6という質問紙の項目である。

今回の調査では、気分や不安の問題を抱えている可能性があるのは441人であった。表２と図19のとおりであり、男性226人（441人中の51.2%、男性の32.5%)、女性215人（441人中の48.8%、女性の29.5%）であった。これは回答者1,423人から不明20人を除いた1,403人中の33.8%に該当する。

表２．不安とうつの可能性

判定	人数（人）	率（%）
正常	962	67.6
可能性あり	441	31.0
不明	20	1.4
合計	1,423	100.0



２）飲酒状況を評価する AUDIT-C

飲酒状況の調査用紙 AUDIT-C の質問項目である問 21 の結果を、表３の飲酒状況（図 20）、表４の一度に 6 ドリンク以上飲む飲酒頻度（図 21）にまとめた。飲酒をしないと回答した 798 人（56.1%）の内訳は、男性 353 人（798 人中の 44.2%、男性の 50.8%）、女性 445 人（798 人中の 55.8%、女性の 61.1%）であった。飲酒と男女で有意差を認めた($p<0.001$，カイ 2 乗検定)。(1 ドリンクは純アルコールで 10 グラム程度のこと)

表３．飲酒状況

飲酒状況	人数	%
飲まない	798	56.1
1 か月に 1 度回以下	140	9.8
1 か月に 2～4 回	180	12.7
1 週に 2～3 度回	95	6.7
週に 4 回以上	167	11.7
不明	43	3.0
合計	1423	100.0

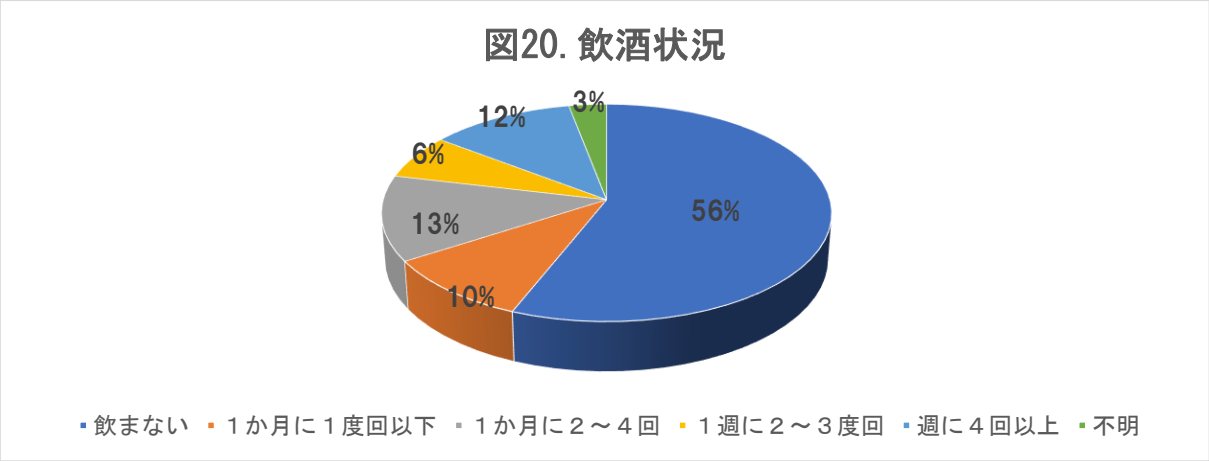
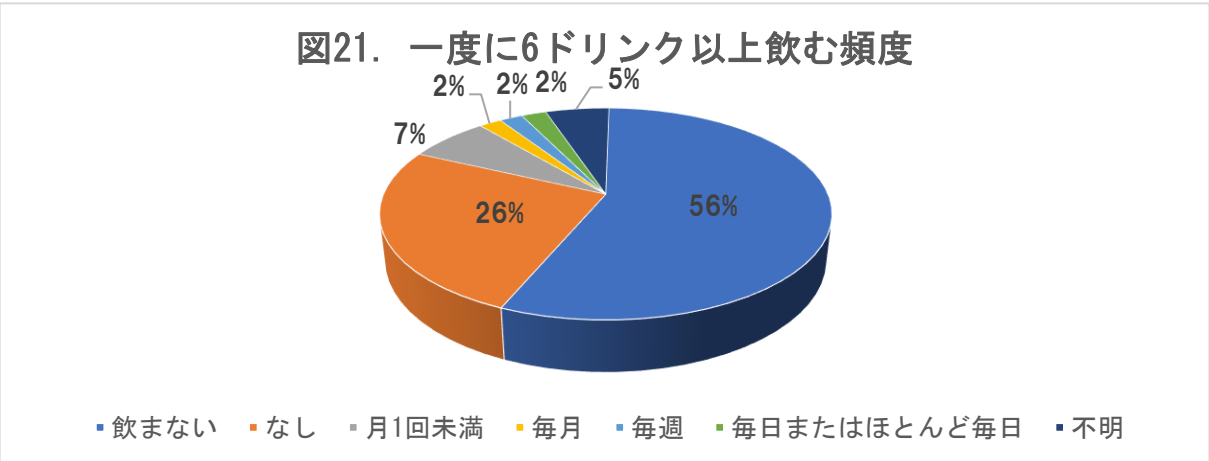


表４．一度に 6 ドリンク以上飲む頻度

飲酒頻度	人数	%
飲まない	798	56.1
なし	364	25.6
月 1 回未満	98	6.9
毎月	27	1.9
毎週	28	1.9
毎日またはほとんど毎日	31	2.2
不明	77	5.4
合計	1423	100.0



AUDIT-C の点数（男性 5 点以上、女性 4 点以上）から飲酒に問題を抱えている可能性があるのは、男性 112 人（男性の 16.1%）、女性 74 人（女性の 10.2%）であった。飲酒の問題と男女で有意差を認めた（p＜0.001，Fisher の正確確率検定）。

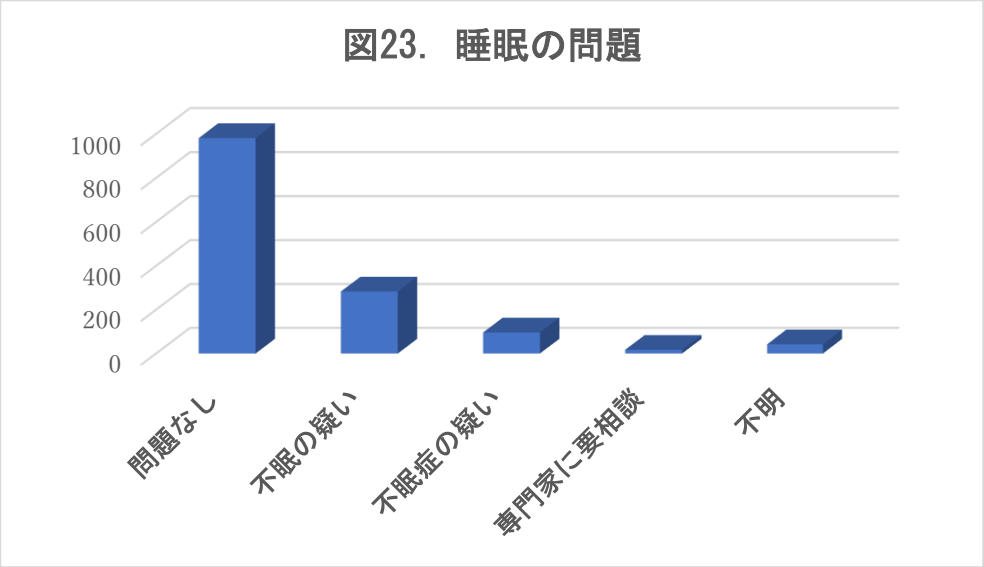
３）睡眠状態を評価するアテネ不眠尺度の結果

睡眠障害に対する質問紙のアテネ不眠尺度である。その結果は、表５のとおりであった。

問題なし 983 人（69.1%）であるが、軽度不眠症 284 人（20.0%）、中等度不眠症 96 人（6.7%）、重症不眠症 17 人（1.2%）で、睡眠に何らかの問題を抱えている可能性が 27.9%の人にあった（図 23）。問題なしは、男性 483 人（983 人中の 49.1%、男性の 69.5%）、女性 500 人（983 人中の 50.9%、女性の 68.7%）であった。

表５．睡眠の問題

判定	人数	%
問題なし	983	69.1
軽度不眠症	284	20.0
中等度不眠症	96	6.7
重症不眠症	17	1.2
不明	43	3.0
合計	1423	100.0



４）インターネット機器使用時間

インターネット機器使用時間が、表６のメッセージ（LINE、チャット、メールなど／図 24)、表７の SNS（Twitter、Facebook、Instagram など／図 25)、表８のゲーム（図 26)、表９のテレビ電話（図 27)、表 10 の電話（図 28）の別に使用時間の状況をまとめた。

インターネット使用時間が一日 3 時間を超えているのは、メッセージでは 84 人（5.9%)、SNS では 102 人（7.2%)、ゲームでは 136 人（9.6%)、テレビ電話では 5 人（0.4%)、電話では 34 人（2.4%）であった。

表６．メッセージ（LINE、チャット、メールなど）
によるネット機器使用時間

メッセージ	人数	%
30 分未満	682	48.0
30 分～1 時間	276	19.4
1～2 時間	213	14.9
2～3 時間	91	6.4
3～5 時間	57	4.0
5 時間以上	27	1.9
利用していない	44	3.1
不明	33	2.3
合計	1423	100.0

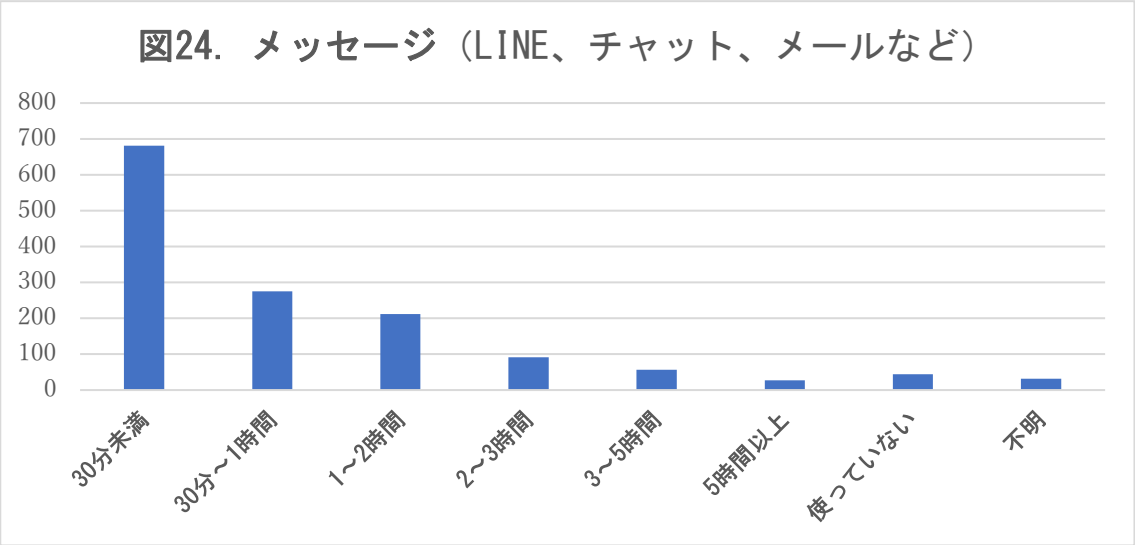


表７．SNS（Twitter、Facebook、Instagram など）によるネット機器使用時間

SNS	人数	%
30 分未満	397	27.9
30 分～1 時間	183	12.8
1～2 時間	217	15.2
2～3 時間	133	9.4
3～5 時間	77	5.4
5 時間以上	25	1.8
利用していない	345	24.3
不明	46	3.2
合計	1423	100.0

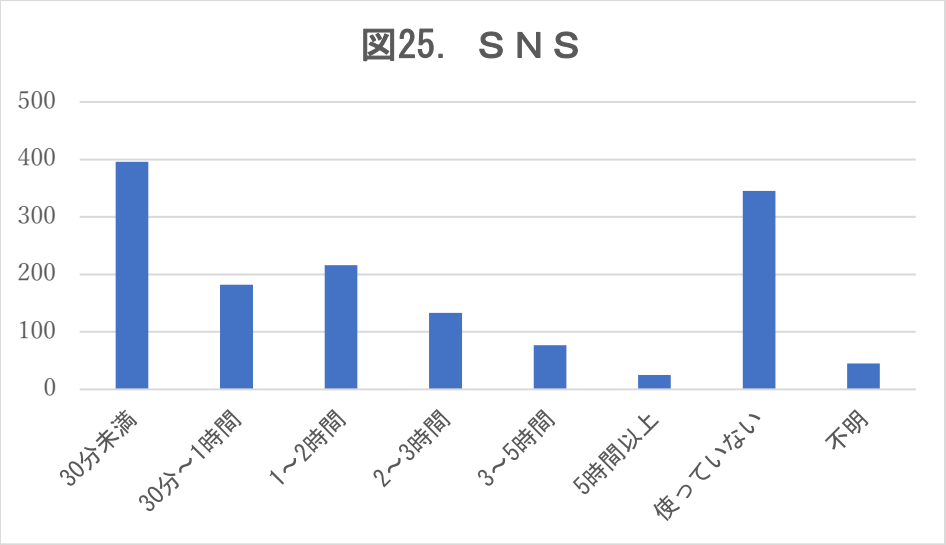


表８．ゲームによるネット機器使用時間

ゲーム	人数	%
30 分未満	288	20.2
30 分～1 時間	143	10.0
1～2 時間	193	13.6
2～3 時間	128	9.0
3～5 時間	95	6.7
5 時間以上	41	2.9
利用していない	490	34.4
不明	45	3.2
合計	1423	100.0

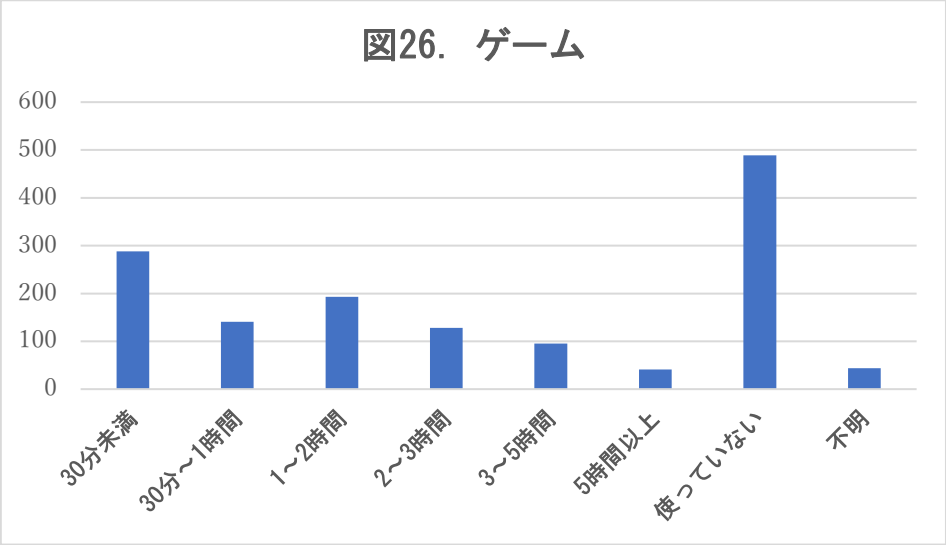


表９．テレビ電話の使用時間

テレビ電話	人数	%
30 分未満	441	31.0
30 分～1 時間	45	3.1
1～2 時間	25	1.8
2～3 時間	17	1.2
3～5 時間	4	0.3
5 時間以上	1	0.1
利用していない	835	58.7
不明	55	3.8
合計	1423	100.0

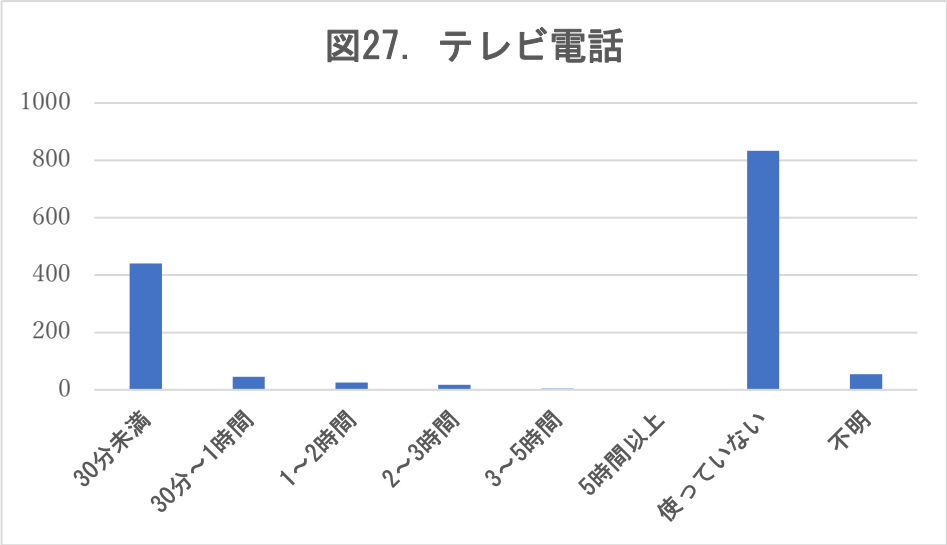
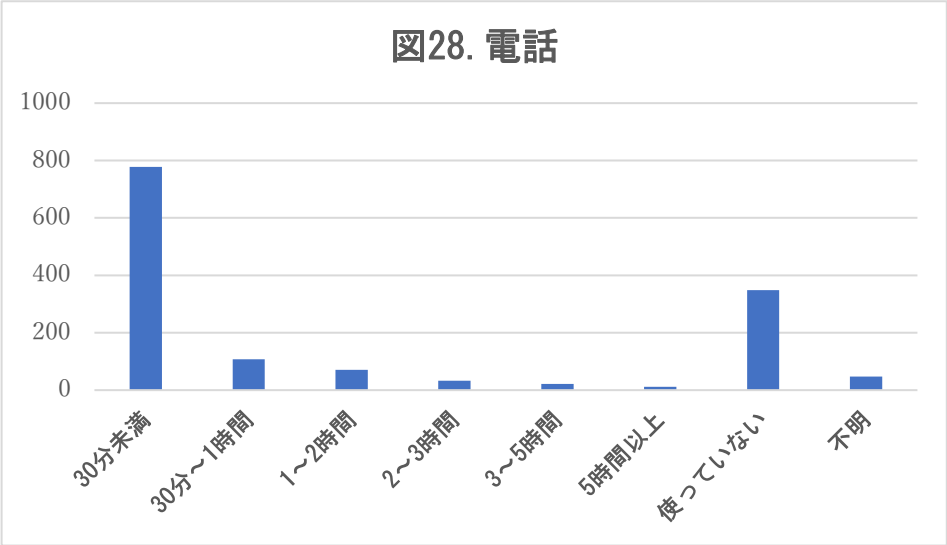


表 10．電話の使用時間

電話	人数	%
30 分未満	779	54.7
30 分～1 時間	108	7.6
1～2 時間	71	5.0
2～3 時間	33	2.3
3～5 時間	22	1.5
5 時間以上	12	0.8
利用していない	350	24.6
不明	48	3.4
合計	1423	100.0



５）新型コロナウイルス感染症の影響

調査票問 20 の 8 項目（表 11～18）について、5 件法により回答を得た。

表 11.「新型コロナウイルス感染症によって大切な人を失うことへの不安がある」に対する回答

	人数	%
全く当てはまらない	239	16.8
あまり当てはまらない	235	16.5
どちらともいえない	271	19.0
やや当てはまる	398	28.0
よく当てはまる	253	17.8
不明	27	1.9
合計	1423	100.0

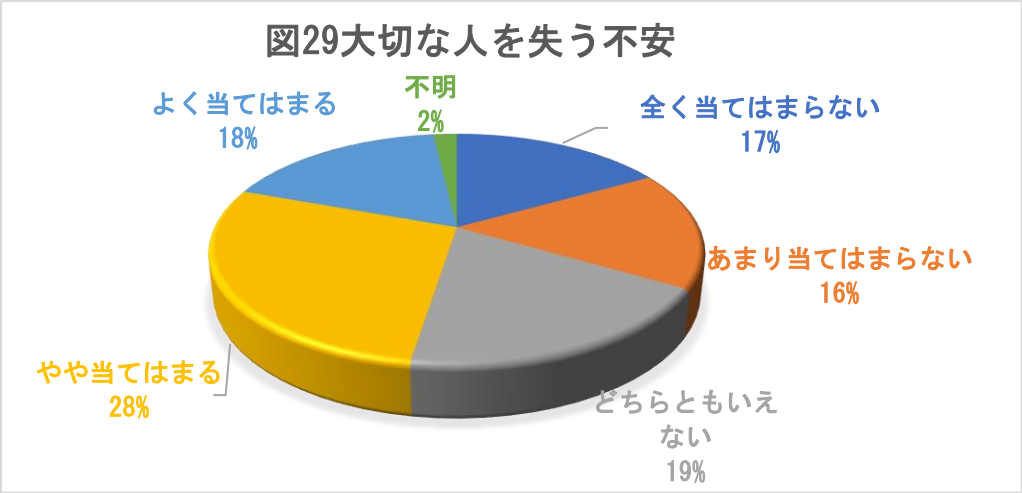


表 12. 「新型コロナウイルスによって収入が減ることへの不安がある」に対する回答

	人数	%
全く当てはまらない	323	22.7
あまり当てはまらない	290	20.4
どちらともいえない	281	19.7
やや当てはまる	319	22.4
よく当てはまる	179	12.6
不明	31	12.1
合計	1423	100.0

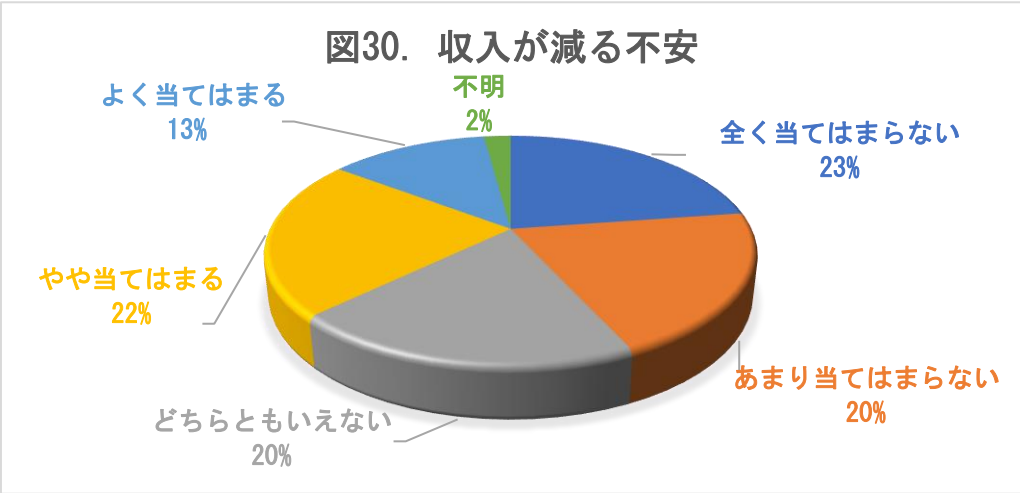


表 13.「新型コロナウイルスによって仕事を失うことへの不安がある」に対する回答

	人数	%
全く当てはまらない	435	30.6
あまり当てはまらない	337	23.7
どちらともいえない	278	19.5
やや当てはまる	212	14.9
よく当てはまる	130	9.1
不明	31	2.2
合計	1423	100.0

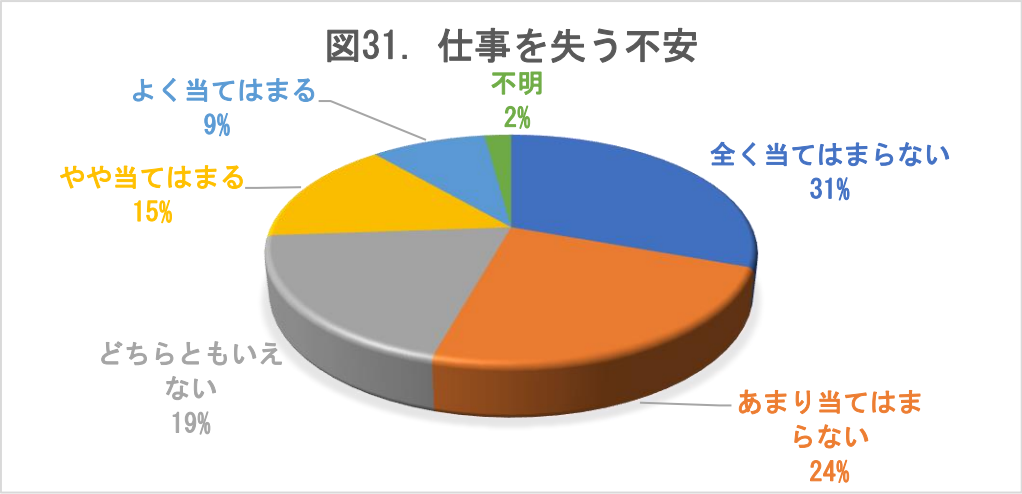


表 14.「新型コロナウイルスで死ぬことへの不安がある」に対する回答

	人数	%
全く当てはまらない	356	25.0
あまり当てはまらない	302	21.2
どちらともいえない	323	22.7
やや当てはまる	264	18.6
よく当てはまる	149	10.5
不明	29	2.0
合計	1423	100.0

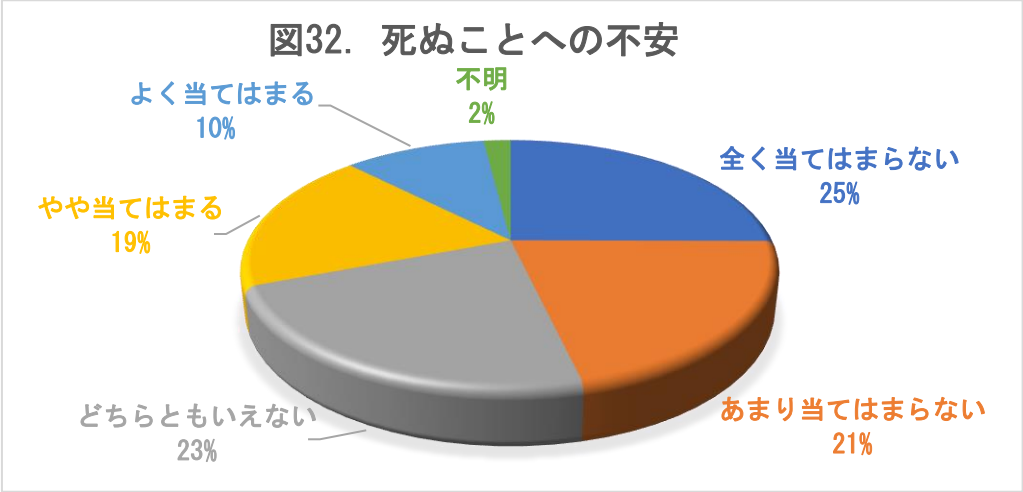


表 15.「新型コロナウイルスに感染していると思われることへの不安がある」に対する回答

	人数	%
全く当てはまらない	431	30.3
あまり当てはまらない	321	22.6
どちらともいえない	308	21.6
やや当てはまる	230	16.2
よく当てはまる	101	7.1
不明	32	2.2
合計	1423	100.0

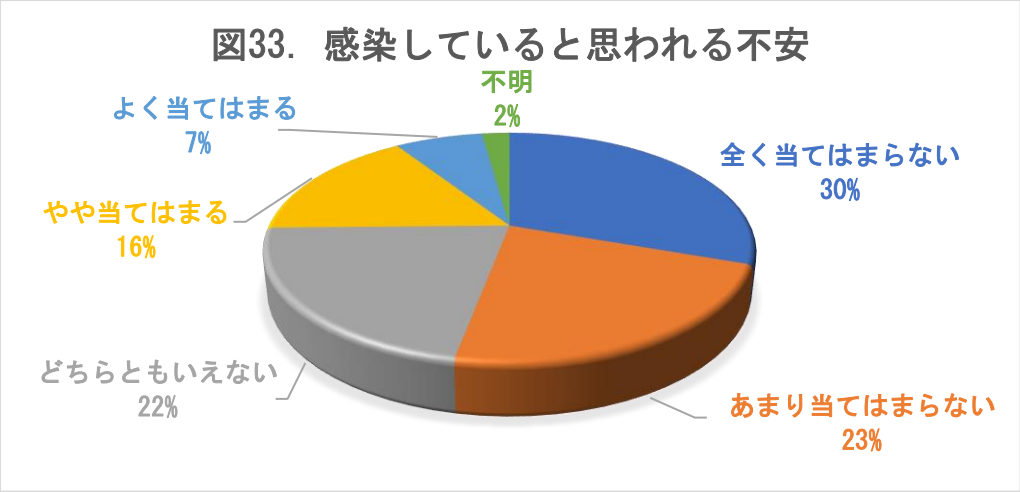


表 16.「新型コロナウイルスに感染していると思われて、さけられた」に対する回答

	人数	%
全く当てはまらない	1184	83.2
あまり当てはまらない	105	7.4
どちらともいえない	74	5.2
やや当てはまる	23	1.6
よく当てはまる	5	0.4
不明	32	2.2
合計	1419	100.0

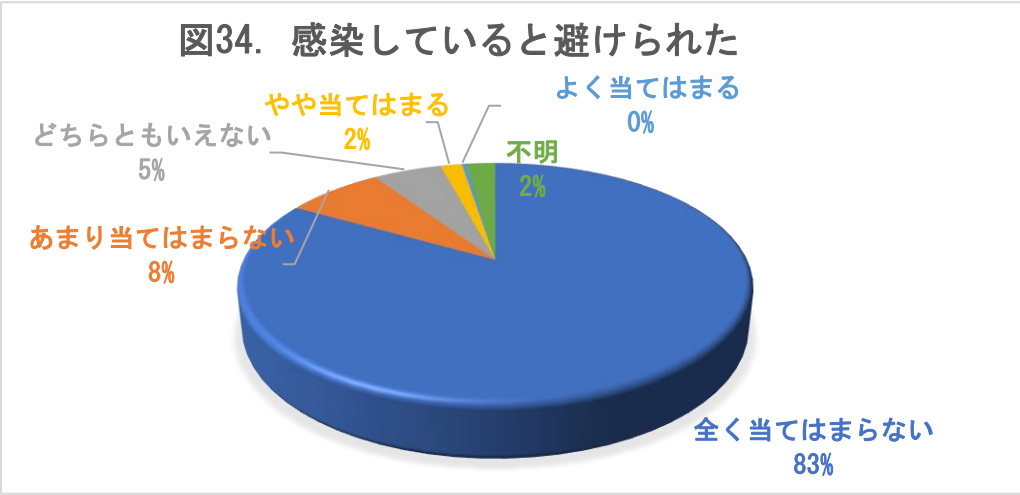


表 17.「新型コロナウイルスに感染していると思われて、いやがらせを受けた」に対する回答

	人数	%
全く当てはまらない	1263	88.8
あまり当てはまらない	67	4.7
どちらともいえない	57	4.0
やや当てはまる	9	0.6
よく当てはまる	0	0
不明	27	1.9
合計	1423	100.0

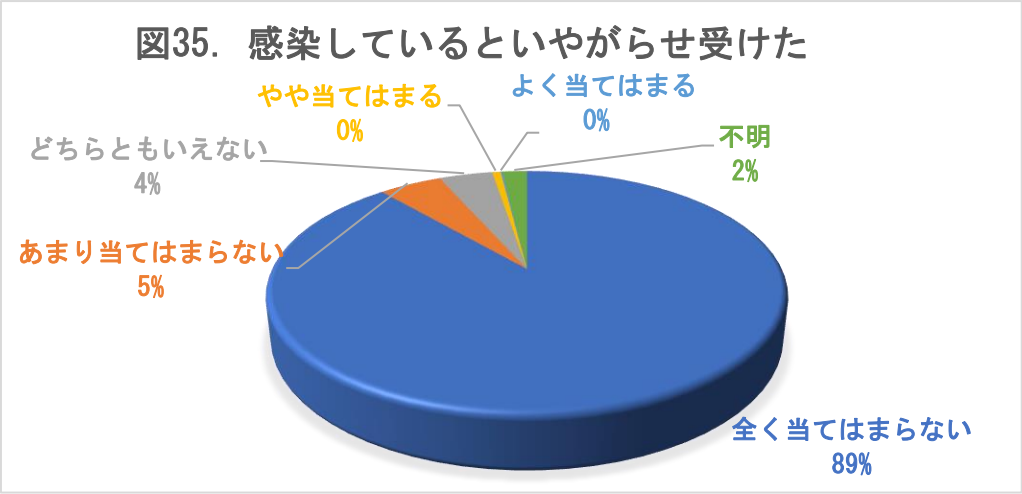
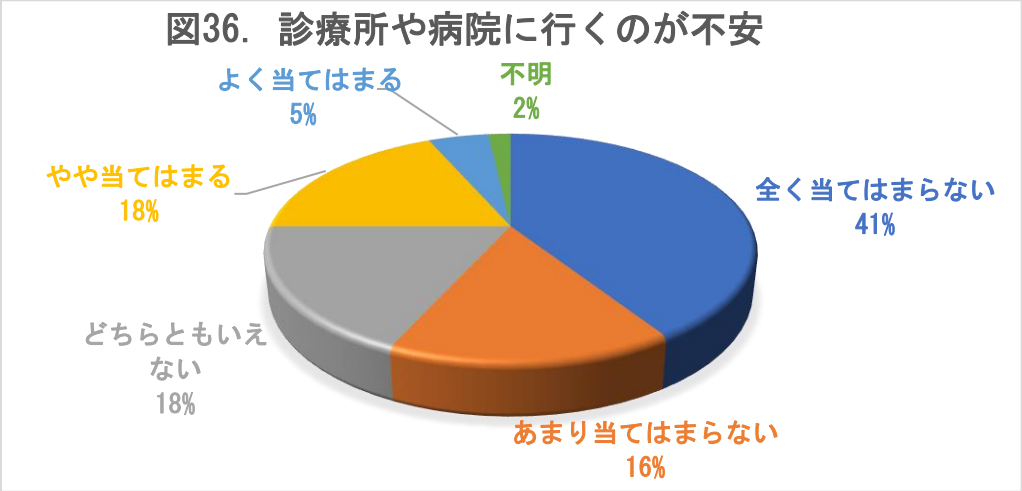


表 18.「新型コロナウイルスにより、診療所や病院に行くことに不安がある」に対する回答

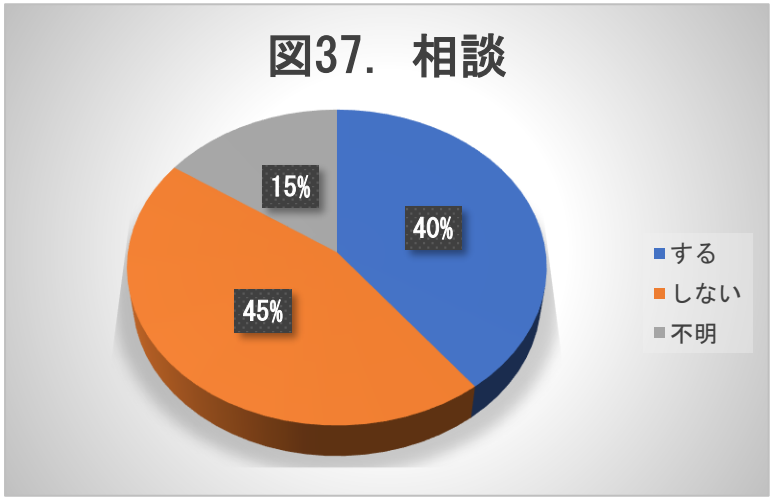
	人数	%
全く当てはまらない	583	41.0
あまり当てはまらない	226	15.9
どちらともいえない	258	18.1
やや当てはまる	262	18.4
よく当てはまる	68	4.8
不明	26	1.8
合計	1423	100.0

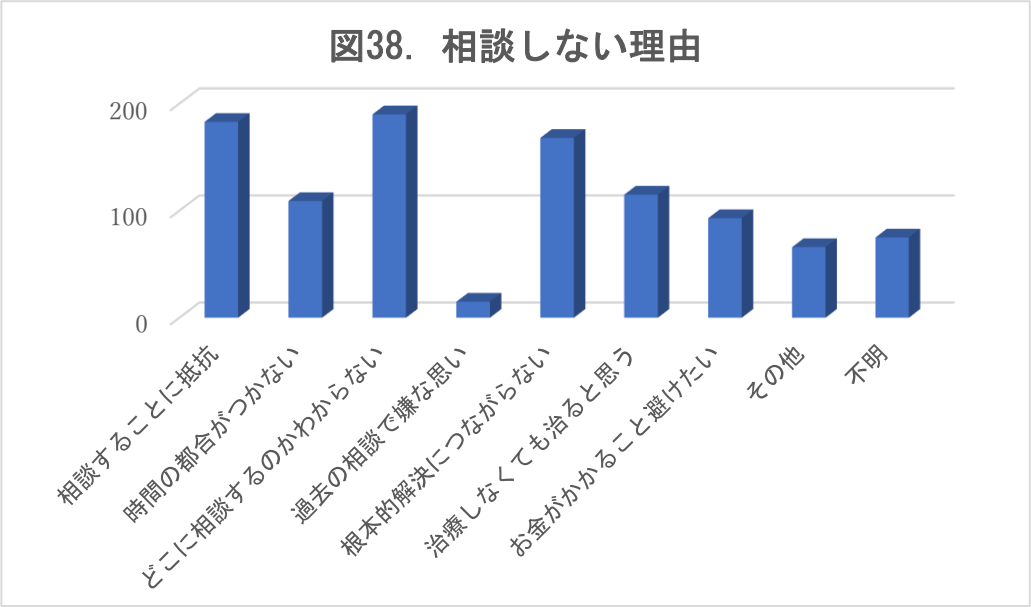


新型コロナ感染症に感染することへの不安は、「大切な人を失うことへの不安」が最も高く、やや当てはまる、よく当てはまるを合わせると 45.8%であった。同様に「収入が減ることへの不安」は 35.0%、「死ぬことへの不安」は 29.1%、「仕事を失うことへの不安」は 24.0%、「感染していると思われることへの不安」は 23.3%、「診療所や病院に行くことに不安」は 23.2%であり、「感染していると思われて、さけられた」は 2.0%、「感染していると思われて、いやがらせを受けた」は 0.6%でわずかであった。

４．ひきこもり相談窓口の利用について

ひきこもり状態になった時に、自ら相談窓口を利用しようと思う人は 563 人（39.6%）であり、利用しようと思わない人は 642 人（45.1%）であった（図 37）。利用しようと思わない理由について、567 人（642 人中の 88.3%）が回答した（重複回答）。567 人中 66 人がその他の意見をくれた。詳細は図 38 のとおりで、「どこに相談したらよいかわからない 190 人(13.4%)」、「相談することに抵抗がある 186 人(13.1%)」、「根本的な解決につながらない 168 人(11.8%)」、「時間の都合がつかないから 109 人（7.7%)」、「治療しなくても治ると思うから 115 人（8.1%)」、「お金がかかることは避けたいから 93 人（6.5%)」、「過去に相談をして嫌な思いをしたから 15 人（1.1%)」であった。





５.自由記載欄（困りごと）

自由記載欄（困りごと）については、303 人（21.3%）の記載があった。そのうち、困りごとがない・該当しないと記入した人は 180 人、困りごとがあると記入した人は 123 人（156 データ）であった。その内訳は、経済：49、仕事：16、不便：15、体調：12、家族：9、生活環境：11、生活サービス：15、育児：3、コロナ：8、対人関係：3、時間：2、地域活動：3、その他：10 であった。

６.まとめ

・今回、佐用町で生活と健康に関する疫学調査を行い、気分障害・不安障害、アルコール問題、睡眠障害、インターネット機器使用時間についての調査結果を報告した。
・気分や不安の問題を抱えている割合は 33.8％にみられた。
・飲酒に問題を抱えている可能性があるのは、男性 112 人（男性の 16.1%）、女性 74 人（女性の 10.2%）であり、男性の方が女性よりも問題を抱えていた。
・睡眠に何らかの課題を抱えている割合は 27.9%にみられた。
・インターネット使用時間が一日 3 時間を超えているのは、LINE やチャット、メールといったメッセージでは 84 人（5.9%）、Twitter や Facebook、Instagram といった SNS では 102 人（7.2%）、ゲームでは 136 人（9.6%）、テレビ電話では 5 人（0.4%）で、電話では 34 人（2.4%）であった。
・社会的機能の低下疑い者は 72 人（5.1%）に認め、二次調査の対象とした。
・厚生労働省のひきこもり定義である仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、６か月以上続けて自宅にひきこもっている状態であると回答した人 93 人（6.5％）であったが、その内、仕事・社会活動をしている、現在在学中で週に 2 日以上登校していると回答している人を除くと 30 人（2.1％）であった。
・現在不登校であると回答した人は 10 人（0.7％）であったが、仕事・社会活動している、現在在学中で週に 2 日以上登校していると回答している人を除くと 5 人（0.4％）であった。
・過去に不登校の経験があると回答した人は 126 人（8.9％）であり、いじめの経験があると回答した人は 339 人（13.8％）であった。
・ひきこもり相談窓口の利用については、利用しようと思わない人は 642 人（45.1％）であった。その理由として、「どこに相談したらよいかわからない 190 人（13.4％）」、「相談することに抵抗がある 186 人（13.1％）」、「根本的な解決につながらない 168 人（11.8％）」、の順であった。

さいごに

本調査結果は、佐用町担当者及び共同研究代表者である目良宣子（山陽学園大学）が行いました。調査にご協力いただきました町民の皆様に厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。